

# 活動報告

## 刊行物

『関西学院史紀要』第31号（2025.03.15発行）目次

### 論文

竹友藻風、志賀勝、由木康、曾根保、岩橋武夫、寿岳文章（一）  
—関西学院の英語教育が育んだ人びと—／井上琢智

### 資料

神崎驥一日記 五／井上琢智

### 記録

関西学院神学部の朝鮮人留学生の実相—「入学関係資料」  
を読み直す—／松谷基和  
ミッションスクールの建築史／川島智生

### 学院史編纂室共同研究報告

「宣教師研究」舟木讓  
「関西学院の戦前・戦中・戦後」井上琢智  
「関学オーラルヒストリー」山泰幸  
「関西学院の学問と社会」荻野昌弘

編集後記／赤江達也

関西学院史紀要 総目次 創刊号～第30号  
／石野利香・井上琢智

## 資料紹介 時計台での午餐会

高等商業学部二十周年記念祭（1931年11月3日）

関西学院大学博物館の展覧会「天を見上げて—関西学院のヴォーリズ建築—」（2024）に感化されて学院史編纂室の資料を繰ってみると、1932年の卒業アルバムに、「午餐会」の写真があった（写真1）。1931年に開催された高等商業学部二十周年記念祭の写真の1枚で、その会場が時計台（旧図書館）2階の閲覧室なのである。

『関西学院高等商業学部史二十年史』（1931）には、「○十一月三日 高等商業学部創立二十周年記念式を挙げる。○同日 十年以上勤続九教授を表彰す。○同日 創立二十周年記念論文集を発行す。○同日 高等商業学部二十年史生る」と記されている。

このとき勤続で表彰されたのは、神崎驥一、W. K. マシューズ、小澤瀆、菊池七郎、東晋太郎、奥田勲、馬淵得三郎、石井卓爾、小寺敬一の9名である。また、「祝二十周年」の文字を掲げた時計台前での大集合写真には、最前列中央に第4代C. J. L. ベーツ院長や第2代吉岡美国院長の姿がみえる（写真2）。『関西学院新聞』第70号（1931年11月20日）でも翌年の大学昇格を目前に、高等商業学部二十周年記念祭が華々しく挙行される様子が報じられている。

そんな当時の様子を思い浮かべながら午餐会の会場となった時計台の2階、現在の大学博物館展示室を訪れてみてはどうだろうか。



写真1 時計台での午餐会



写真2 時計台前での大集合写真

## 編集後記

21世紀の関西学院は「総合学園」として大きく発展しています（中道基夫「『学院史編纂室便り』発行再開によせて」本誌第57号）。そこで本号では、「総合学園」を特集テーマに掲げ、神戸三田、西宮聖和、そして神戸・原田の森（掲載順）の各キャンパスをめぐってご寄稿いただきました。また、災害復興制度研究所の歩み、関西学院大学博物館ヴォーリズ展の回顧をご執筆いただきました。

神戸三田キャンパス開設と阪神・淡路大震災から30年——、第59号をお送りします。

（学院史編纂室長 赤江 達也 あかえ たつや）